

5 外国語科（英語）

(1) 系統表について

ア 指導内容系統表の作成上の留意点

学習指導要領外国語科の目標は、実践的コミュニケーション能力の育成であり、中学校及び高等学校において、4領域における3学年間の指導事項がまとめて示されていることから、系統的に指導を行う必要がある。そこで、小・中・高の英語（活動）指導を行う教員が言語活動の指導事項の系統性を意識できるよう各領域の系統表を作成することにした。また、小学校外国語（英語）活動は、「総合的な学習の時間」の国際理解に関する学習の一環として、目標や学習内容を学校裁量で決めるものとされている。現在、英語活動においては、外国語に触れたり、外国の文化や生活などに慣れ親しんだりするなどの体験的な学習を行い、コミュニケーションへの積極的な態度の育成を目指して活動が展開されている。本稿では、現行の「総合的な学習の時間」の国際理解に関する学習の配慮事項と新学習指導要領の外国語活動の目標及び内容を参考として系統表に記載することにした。

このことから、次のような内容を取り入れて「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の領域の指導内容系統表（図8）を作成した。

ア) 指導内容

中学校の外国語科（英語）の目標は、実践的コミュニケーション能力の基礎を養うことであることから、学習指導要領で示されている言語活動の指導事項を基に指導内容としてまとめた。また、高等学校については、4技能を総合的に育成することと中・高接続の観点から、「英語Ⅰ」の言語活動の指導事項を基にして指導内容としてまとめた。

言語活動の指導事項については、3学年を通して指導することから、系統的に前校種を意識しながら指導していくことが、生徒の4技能を総合的に育成することにつながる。

イ) 育てたい力

言語活動の指導事項をバランスよく計画的・系統的に指導を行うことが大切である。学習指導要領においては、実践的コミュニケーション能力の育成のため、①言語や文化に対する理解、②コミュニケーションへの態度、③コミュニケーション能力の柱を示している。中高の英語教員が、相互の到達目標を意識して指導に当たることが大切である。そこで国立教育政策研究所が示した評価規準の4観点の内容を基に育てたい力としてまとめた。

ウ) 活用例

活用については、英語授業の中で既習の言語材料などを活用した言語活動や校外で身近な外国人との交流などが考えられることから、言語の使用場面、言語の働きなどを考慮した活動内容を活用例として取り上げることにした。

		領域名「○○○○」		
		小学校	中学校	高等学校
指導内容		4領域ごとに学習指導要領の言語活動の指導事項を基にまとめる。小学校は現行の総合的な学習の国際理解教育のねらい及び新学習指導要領の内容を参考として記載する。		
育てたい力	① コミュニケーションへの関心・意欲・態度	・言語活動への取組 ・コミュニケーションへの継続		
	② 表現の能力	・「話すこと」: 正確な発話, 適切な発話 ・「書くこと」: 正確な筆記, 適切な筆記 ・「読むこと」: 正確な音読, 適切な音読		
活用例	③ 理解の能力	・「聞くこと」: 正確な聞き取り 適切な聞き取り ・「読むこと」: 正確な読み取り 適切な読み取り		
	④ 言語や文化についての知識・理解	・言語についての知識 ・文化についての理解 ※ 小学校については、現行の「総合的な学習の時間」の国際理解教育のねらい及び新学習指導要領で外国語活動の目標及び内容を参考として記載する。		
		言語の使用場面、言語の働きを考慮しながら、活動内容を記載する。		

図8 指導内容系統表例